

# 令和4年度官民協働事業レビューにおける意見・評価

事業番号:20-1

担当部局・担当課名:地方創生局 地方創生・移住交流課

事業名	移住者受入モデル地域に対する支援	評価結果	一部改善
-----	------------------	------	------

## 事業レビューにおいて発言のあった主な意見

### 【委員の意見】

- ・事業そのものを全部やめるという意味ではないが、10年間の成果を整理し、それを各市町村、地域に示してあげるようなフェーズに来ているのではないかと。
- ・現行の手上げ方式のモデル選定のやり方は底上げ策に近い。移住者を増やすという大きな目的のためには上を引っ張っていく方法(県から移住者が多い地域にアプローチしていく)も必要。
- ・ハード支援が予算的にかなり大きい費用になっているが、地域の拠点整備が移住者の方々の交流施設として本当に活用されているのか把握しているのか。交流に活用する、あるいはもっとPRすることが必要。
- ・ハード支援とソフト支援の比重のバランスを失っている。ハード支援の申請がない場合はソフト支援への振り替えを認めるべき。

### 【県民評価者の意見】

- ・次のフェーズに入ってきていると思う。話のあった個別のマッチングなどを切り口にしてこれから進めていただければよい。

## 県民評価者の評価シートによる評価

県民評価者総数 17

評価区分 (考え方)	行政の関与 不要 (補助金をやめる)	役割分担 見直し (市町村又は国がやる)	抜本的改善 (たとえば県が地域指定するなどやり方を大きく見直す)	一部改善 (10年間の整理をしたうえで次を検討する、又はハードとソフトの比重の見直しをする)	現行どおり ・拡充 (現行どおり手上げ方式でやる又は予算を増やす)
	0	2	4	9	2
県民評価者の主な評価シートコメント	<b>【一部改善】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内外に対する各種PR方法が見えない。(富山の良い所(災害が少ない等)、各地区の良い所をPR)</li> <li>・県内各地へこの事業のPR、説明を再度(都度)行う必要がある。</li> <li>・モデル地域の実績、成功例・失敗例を県として取りまとめて公表すべき。</li> <li>・モデル地域の横展開が必要。</li> <li>・ハード事業部分はモデルとして一定の役割を果たしたのではないかと。例えば、働き手確保等との連携強化にシフトするなどの見直しが必要。</li> <li>・予算の大部分を占めるハード面の事業の実施方法については見直しが必要。交流施設などの整備によって十分な効果が期待できないのであれば予算が無駄になる可能性があると思う。既存施設の活用などを検討してはどうか。</li> <li>・住民側が移住者を受け入れられない事例を耳にするので、受け入れ側からの歩み寄りのサポートを加えてはどうか。</li> <li>・事業の実施にあたり、移住者の目線はあるか。移住経験者がいると良い。</li> <li>・移住者を中心にSNSで良い地域性を発信してもらえばよいのではないかと。</li> </ul>				
	<b>【抜本的改善】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・モデル地域から横展開はされているのか。今までの成果を整理して、市町村へのPRが必要。</li> <li>・認定された地域(受入側)のマインドを変える。受入側の体制を整える。移住者が定住するためのソフト面の見直し。</li> </ul> <b>【役割分担見直し】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2013年～2022年の10年間に事業実績ができた・基本的な流れができた・県外への情報発信ができたので、市町村が主体となって事業を継続したらどうか。</li> </ul> <b>【現行どおり・拡充】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・モデルとしての効果は認められる。</li> <li>・首都圏でのPRを強化してほしい(移住者による良い事を伝える)。</li> </ul>				

<b>事業名</b>	移住者受入モデル地域に対する支援	<b>評価結果</b>	一部改善
------------	------------------	-------------	------

<b>【参考】委員による評価</b>				<b>委員総数</b>	4
評価区分 (考え方)	行政の関与 不要 (補助金をやめる)	役割分担 見直し (市町村又は国がやる)	抜本的改善 (たとえば県が地域指定するなどやり方を大きく見直す)	一部改善 (10年間の整理をしたうえで次を検討する、又はハードとソフトの比重の見直しをする)	現行どおり ・拡充 (現行どおり手上げ方式でやる又は予算を増やす)
	0	0	1	3	0
委員の 主な コメント シート	<p><b>【一部改善】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各コミュニティで県外移住者の受け入れのために人間関係における問題等についての解決策をモデル地域で示す等、モデル地域でできることはある。しかし、県内移住者増加の目的のため、様々な地域で人口増加させるのか、都市部を強化するのかといった、どのように増やすのかを考えていくべきである。</li> <li>これまでの実績地域からの要望や反省・問題等を検討されていると思いますが、改善点が見えるように願いたい。</li> <li>「モデル」事業としてはほぼ一巡しているのではないか。これまで得られた成果を他地域にも展開できるような啓発が必要。</li> <li>本来であれば市町村が中心になるべき地域おこし事業の面が強いと思われるが、現実論として当面県が行うことはよいと思う。</li> <li>説明のあったプッシュ型移住セミナー等は是非進めるのがよいと思う。ハード予算よりもソフト予算の枠を増大すべきではないか。</li> </ul> <p><b>【抜本的改善】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>移住者のモデル地域での決定率UP、定着率UPのために地域の移住モデルを県から施策として提示していく必要がある。それによって、事業名・内容の変更があるのではないか。</li> </ul>				

**県の対応**

対応方針	一部改善	事業内容見直し			
	<p>○各地域の特徴を活かせるように、これまでの実績をもとにソフト事業の枠組みを強化し、ソフトに対する助成金の限度額を引き上げ(75万円→300万円)、ハードに対する助成金の限度額700万円(現行1,250万円)とすることで、地域ごとの移住促進施策を支援</p> <p>○モデル地域の取組みを市町村に横展開するとともに、移住検討者へPRするため、新たに「モデル地域」をテーマとした移住者向けオンラインセミナー等を実施</p>				
R5当初予算での対応	R5当初予算(案)	10,000(千円)	R4当初予算	13,800(千円)	増減額 ▲3,800(千円)
	増減理由	<p>・過去の実績を踏まえて、ハードに対する補助金限度額を700万円に引き下げたことなどによる減</p>			

事業名	移住者受入モデル地域に対する支援	評価結果	一部改善
-----	------------------	------	------

当初予算編成プロセスの見える化

令和5年度当初予算	要求状況	要求額	10,000(千円)	前年度予算額	13,800(千円)	
		事業の目的	移住者受入に積極的な地域を支援し、県内への移住者を増加させる。			
		事業内容	<内容> 1.県による移住者受入地域の調査及び認定 2.受入地域の支援(ソフト・ハード)			
		積算内訳	助成金 9,650千円、事務費 350千円			
	予算編成過程における議論		レビューにおける意見を踏まえ、ソフト事業に係る限度額の引上げなど、適切に補助制度の見直しが行われている。			
	最終的な予算案	予算額	10,000(千円)			
		要求時点からの変更点	変更なし			